



## 特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会

# 平成26年度 総会・懇親会

平成27年3月19日(木)、目黒雅叙園(東京都目黒区)にて「平成26年度総会・懇親会」を開催し、109名にご参加いただきました。

総会では、競技団体ごとでのオリンピックの活動例としまして、ボート競技でメルボルン大会に出場された岩崎洋三さんより「オリンピック・ボート・選手役員の会」の設立並びに活動についてご報告いただいた他、2020年東京オリンピック・パラリンピックの大会開催基本計画の骨子について

の説明なども行われました。

その後の懇親会では、出場大会別の写真撮影なども行われ、会場内では世代や出場競技種目の枠にとらわれず、同じオリンピックとして様々な交流がなされていました。

最後に、出席オリンピック全員での記念撮影が行われ、平成26年度総会・懇親会も盛会のうちに終了いたしました。

平成27年度も、一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

# オリンピックの人間力

「オリンピックの人間力」では、まなざしの奥に潜在するオリンピックの人間力に迫ります。このインタビューは、OAJウェブページ(<http://www.oaj.jp>)でご覧いただけます。

(文：田中清行)



写真提供：フォート・キシモト

## Once Olympian, Always Olympian

第30回  
ちばけんろう  
千葉建郎  
ボート競技／ローマ

田中英光の「オリンポスの果実」は1932年のロサンゼルス・オリンピックに出場する日本代表ボート選手の私小説として有名であり、歴史探偵として活躍中の半藤一利さんの隅田川でのボート三昧の青春もつとに名高い。ボート競技はヨーロッパではそれこそサッカーやラグビーに勝るとも劣らぬ歴史と人気を有する紳士のスポーツだ。その華のエイトに青春を賭け、55年前の1960年ローマ・オリンピックへの出場を果たし、オリンピックの誇りを胸に抱き続ける男がいる。東日本大震災での被災にもめげず、謙虚に、熱く、まっすぐに生きるボートマン千葉建郎さんを、気仙沼に訪ねた。

サミュエル・ウルマンの『Youth』という詩が年を経るにつれて益々好きになり、時に口にしています。「Youth is not a time of life, it is a state of mind(青春とは人生のある期間をいうのではなく、心の在り様をいうのだ)。「人は信念と共に若く、疑惑と共に老い、自信と共に若く、恐怖と共に老い、希望のある限り若く、失望と共に老いる」。現在77歳ですが、大事な詩であり、私のモットーです。ボートに出会い、格闘し、事業で格闘し、大病を患い、津波にも遭い、それでも希望を持っています。命擦り切れる思いを幾度かしながらもよく生き残っていると思います。逆境でも夢と希望を持ち続けたからかな。そして懲りずに今でもね(笑)。

1956(昭和31)年に東北大学に入学し、大学一年の冬に誘われてボート部に入りました。同郷の気仙沼出身の畠山孝さんという人が1936年のベルリン・オリンピックのボート競技に出場していることも入部の一因でした。宿舎のある塩釜では朝の5時から船を漕いで7時に終えて、一時間半かけて仙台の校舎へ行くという

生活でした。厳しい練習で、いつやめようかと思っているうちに新入生が入って来て、みんなに、やめずに頑張れよ、と言っていたら、私自身が深みに嵌っていたのです(笑)。当時の監督堀内浩太郎さんは、旧制二高から東大、航空機、造船業界で活躍された方ですが、すばらしい人でした。この方の指導力、指導法には今でも敬服しています。上級生になって主将を任せられ、集中力と効率、最新鋭の装置での科学的実証、女子高体操部での敏捷性促進等々旧来の体力勝負に少し知性と冒険を加え、先輩からはお小言ももらいましたが、堀内さんの寛大なフォローで事なきを得、タイムもぐんと伸ばすことができました。当時のボート競技には漕ぐだけではなく、船をつくることも含まれました。造船力学、航空力学等の知識が当然必要で、この辺がボートの面白さでもありました。1959(昭和34)年に来日したオックスフォード大学に決勝で小差で負けたのですが、留年してでも翌年のローマ・オリンピックを目指そうかと思い始め、家に帰って「一年大学に残っていいだろうか」と病身の父に相談

したら「皆さんの推めならやってみなさい。但し卒業後はまっすぐ気仙沼に帰って来る事」を条件に留年の了承を得ました。

努力が報われ、無事日本代表になりました。当時世界一流のエイト二千メートルの記録は6分でした。我々のチームは練習で何度も5分55秒あたりを出していました。実際その頃つくった我々の公式記録はその後21年間破られなかったのです。堀内監督設計のボート「凶南(ルビ:トナン)」を船便で送り出し、1960年8月我々は空路ローマに入りました。届いた凶南を見て驚きました。長い船旅に凶南の船底が乾燥で波打っているのです。予選はトップと約四艇身差の五艇中四位。大きなハンディキャップでのレースでした。更に予選、敗復共フランス語のスタートの合図にミスをし、予選は1位のドイツに2艇身(約8秒)負け、翌日の敗復戦ではスイス、オーストラリアを千メートルで抜き、ラスト500メートルはイタリアとデッドヒートの戦いをしたのですが、写真判定で40cmほど届かず、決勝進出を逃し、文字通り涙を飲みました。地元イタリアの熱

子どもゆめ基金助成活動

平成26年度 オリンピアンふれあい交流事業

主催 特定非営利活動法人日本オリンピック協会  
協力 公益財団法人日本オリンピック委員会



### 陸上教室

静岡県袋井市／平成27年2月14日(土)

共催 一般社団法人袋井市スポーツ協会  
会場 小笠山総合運動公園エコパメインスタジアム

講師に、高橋千恵美さん(シドニー大会出場)を迎え、小学生77名が参加しました。





### オリンピック：千葉建郎(ちば・けんろう)

1937(昭和12)年宮城県生まれ。東北大学卒。大学でボートに出会い一気にのめり込み、東北大最強時代を築く。1960年のローマ・オリンピックにボートのエイトに日本代表の東北大チームキャプテンとして参加。惜しくも決勝進出を逃す。その後地元気仙沼で手広く会社を経営し、公職でも広く活躍し、一貫してボートの普及促進にも尽力している。今夏55年ぶりのローマでのボートの再戦を企画実行。その団長、キャプテンの重責を見事に果たす。支倉常長慶長遣欧400年も兼ねたビッグイベントとして現地でも大きな話題となり、オリンピックならではの熱い旧交を温めた。

狂的な声援で東北大コックスの号令もクルーには届かない程でした。

翌年私は気仙沼に戻り、水産関係の仕事を始め、鮮魚出荷、水産加工、製氷冷凍冷蔵、漁箱製造等の事業を営み、数多くの公職にもつきました。仕事もしましたが酒もよく飲み、最後の一人を送り届けてから帰る日々が続きました。ボート現役時代の体格は174センチ、72キロでしたが、いつの間にやら77キロあたりになっていました。17年前には、99.9%見込みなしといわれた食道ガンの手術をしました。院長も外科部長もボート部の先輩、後輩の病院でその後輩が、マグロの三枚おろしのようにリンパ腫に至るまで徹底的に摘出してくれました。手術後も四日間眠り続けた大手術でしたが、それに耐えた身体に感謝しました。目が覚めて、頑健な身体に産んでくれた両親に、さらに強くしてくれたボートに、そしてオリンピックであることに感謝しました。

「支倉常長遣欧使節ローマ来訪400年、ローマ・オリンピックでの日伊大接戦のボートレース55年を記念して、両国の友好行事の開催をボート協会と始めています。アルパノ湖でぜひまたボート競技をやりましょう」。去年12月にミルビア・モナケージ市長から日本ボート協会に届いたこの親書で本格化したイベントです。果たしてこの夏、思い出のアルパノ湖での再戦となりました。日本チームは結局八大学から集まった平均年齢70歳弱のメンバーで同年齢のイタリアに挑みました。我がチームは事前に鶴見川で一度

だけ合同の練習をしたただけだったので、みんな一流かつベテラン、最年長の私に合わせるという試合前の約束もすっ飛んで(笑)、ハイピッチで気持ちよく漕げて、一艇身以上の差で勝つことができました(笑)。今回の船は凶南ではありませんでしたが、伊達政宗が海外に雄飛したいという意を込め、船名の由来ともなった「凶南の鵬翼いずれの時にか奮わん久しく待つ扶揺万里の風」の詩の如く、扶揺の風に鵬翼を拡げて、雪辱を果たし、そしてイタリアのエイトとの友情も温めた、すばらしいローマ遠征でした。

ボートの練習は厳しいです。他のスポーツも一流を目指せばもちろん厳しいでしょう。でもこれは堀内さんから学んだことでもあります。愉しく漕げば強くなる、逆説的ですが、愉しくなるくらい漕げということです。相当の練習を積んで、技術的にも工夫を重ねないとそうはならないのですが、それこそがエンジョイ・ロウイングです。

さて気仙沼の市場の近くにあった我が家も四年半前に津波に流され、今はこの仮設住宅に暮らしています。家族を亡く

し、家を流され、辛い思いをしている人が多く暮らしています。そこにも生活不活発病や孤独死があります。この一角にある公園とそれにつながる空き地を使って、パークゴルフ場をつくりました。コミュニティとみんなの健康維持のためにつくりたいと思うと声をかけたら、多くの住人がスコップと鍬を手にして集まってきて、自力で見事な9ホールコースができました。周りは山ですから、ホールインワンが出たりするとみんなで肩を叩いて大騒ぎです。コミュニティが少しずつできてきて、みんなの集う場所が、病院からその公園になりつつあり、肉体的、精神的な健康が増進されていることを実感していて、オリンピックとしてささやかにお役に立てたかなと思っています。

二年後には80歳になりますが、実は世界マスターズのオーバーエイティで金メダルを取りたいと思っています。そのために、住宅の側に置いてあるエルコメーター(ローイングマシン)でトレーニングを続け、健康と体力維持に頑張っています。Once Olympian, Always Olympian. やっぱり、「希望ある限り青春」ですね(笑)。

大学時代に一気に日の当たる所に躍り出た千葉さんだが、オリンピック後はお父さんとの約束通り帰郷し、地道に仕事をし、会社を経営し、多くの公職にもつき、気仙沼から日本と世界のボートを見つめ、ボートを思い、後進を育て、ボートの良さを伝え、文字通り地に足の着いた堅実な人生を歩まれた。中央にあっても大成されたであろうとの感は強かった。聡明で、紳士で、謙虚で、しかも熱い千葉さんのお人柄に痛く感銘を受けた。取材後は、気仙沼市内から陸前高田の奇跡の一本松まで、自らガイド役を引き受け、被災の近況と今後の復興策に独自の鋭い文明評を加味しながらもあくまで紳士然とご案内して下さった。

スポーツ振興くじ助成事業

## 平成26年度 オリンピアン巡回指導事業

主催 特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会  
協力 公益財団法人日本オリンピック委員会



## サッカー教室

東京都町田市／平成27年3月7日(土)

共催 スポーツパークパートナーズまちだ  
会場 町田市立陸上競技場

講師に、泉 美幸さん(アトランタ大会出場)を迎え、小学生52名が参加しました。



## ソフトボール教室

青森県青森市／平成27年8月9日(日)

共催 スポルト青い森グループ  
会場 青森県立総合運動公園 県営野球場

講師に、松本直美さん(アトランタ大会・シドニー大会出場)を迎え、93名の子どもたちが参加しました。



## バドミントン教室

兵庫県芦屋市／平成27年9月5日(土)

共催 (特非)芦屋市体育協会  
会場 芦屋市立体育館・青少年センター

講師に、水井妃佐子さん(バルセロナ大会・アトランタ大会出場)と須賀泰子さん(アトランタ大会・シドニー大会出場)を迎え、小学生から高校生まで73名が参加しました。



## サッカー教室

北海道札幌市／平成27年9月6日(日)

共催 みどりみらいプロジェクトグループ  
会場 屯田西公園

講師に、矢野喬子さん(アテネ大会・北京大会・ロンドン大会出場)を迎え、小学生79名が参加しました。



## ソフトボール教室

滋賀県長浜市／平成27年9月27日(日)

共催 上草野地区地域づくり協議会  
会場 長浜市旧上草野小学校 運動場

講師に、松本直美さん(アトランタ大会、シドニー大会出場)と藤井由宮子さん(シドニー大会出場)をお迎えし、62名の中学生が参加しました。



## テニス教室

東京都中野区／平成27年10月4日(日)

共催 日本体育施設グループ  
会場 中野哲学堂公園 テニスコート

講師に、小畑沙織さん(アテネ大会出場)を迎え、小・中学生50名が参加しました。



## 平成27年度 オリンピックの集い(ゴルフ大会)

日時：2015年6月18日(木) 会場：森林公園ゴルフ倶楽部(埼玉県)

スポーツでのオリンピック相互の交流を主眼とし、今回で第7回目となる平成27年度オリンピックの集い(ゴルフ大会)を2015年6月18日(木)に埼玉県の森林公園ゴルフ倶楽部にて開催。総勢27名のオリンピックに参加いただきゴルフコンペと懇親会を実施しました。途中雨も降り、あいにくの天候でしたが、盛会に終了いたしました。

